

## 抱負文 (社外取締役候補 加藤ひとみ)

### 【社外取締役候補に至った背景】

私は、企業法務歴約40年の間、上場企業が多数参加する「経営法友会」で運営委員・評議員(現在)を務め、様々な分野で多くの企業と情報交換を行い、書籍の執筆も行いました。

今般、積水ハウスに対する株主提案における社外取締役候補への打診を受け、平成16年に商事法務から発行した「内部通報制度ガイドライン」の策定過程での議論を思い出しました。「内部通報制度を策定しても、経営者に端を発した不正の場合は制度の実効性が担保できるか」に関して、ほとんどの参加者は「自らをサンクチュアリに置く傾向のある経営者に対する内部のモニタリングは困難である」という共通した懸念を有していました。

その後、会社法改正、コーポレートガバナンス・コードの普及により、内部のしがらみや利害関係を持たずに独立性を保ち客観的に経営をモニタリングできる社外取締役制度の導入が進み、上記の懸念が払しょくされるものと期待されました。

しかし、経営側が、社外取締役を数合わせで選び、単なる飾り物やゲストとしてしか認識していない場合には、依然としてその懸念は存在し続けます。

積水ハウスの、いわゆる「地面師事件」もそのような状況下で発生したものと思われますが、今般の株主提案では、独立した社外取締役を過半数にすることで、取締役会の公平公正な議論を促し、透明性を諮ろうとするものであり、これが実現すれば積水ハウスの企業価値を高め、株主をはじめとするステークホルダーの利益に貢献できるものと考えたので、応諾した次第です。

### 【選任された場合の抱負】

#### 1. 第三者委員会による、いわゆる「地面師事件」の再調査への協力：

本事件は、独立した第三者で構成される「第三者委員会」によって再調査を行い、原因を分析し再発防止策が提言される予定です。その内容は公表され、上場企業としてアカウンタビリティを果たすことができ、私は当該調査に全面的に協力いたします。

#### 2. 内部統制、CSR部門との連携：

法務部(コンプライアンス事務局)、監査部等の内部統制部門と日常的な連携を図り、決裁権限規定等の現状の制度や規則についての理解も深めます。また、CSR部門ともコミュニケーションを図り、企業価値向上に向けた現状の取組を把握いたします。

#### 3. 監査役会との連携および社外取締役間のコミュニケーションの充実

平時はもとより有事においてはこれらの機関との連携が重要で、日常的なコミュニケーションの充実を図ります。

### 【会社への要望】

1. 実態を十分に把握すること無しに経営をモニタリングすることは困難です。期待される機能を果たす活動を支えるため、積極的かつ十分な情報提供をしてください。

企業文化も含めて当社の理解に努めます。

2. 取締役会の審議事項を正確に理解し、主体的に発言できるように、開催前に十分な時間と説明役によるサポートを望みます。
3. 株主との対話を可能とするために自己研鑽を積む所存でありますので、事業に関する考え方等の経営に関する取組姿勢を、随時示してください。

以上により、独立した社外取締役としての職責を全うし、株主利益の拡大および当社の企業価値向上に寄与すべく努力する所存でございます。

以上